



1978年 土門拳書 故中村春雄氏旧蔵

土門拳記念館で大事にしたいマナー



作品にはさわらない

作品はとてもデリケート。
額やケース、壁(かべ)にも
さわらないで。



会場では走らない

作品や他の人に
ぶつからないように、
会場ではゆっくり歩こう。



大きな声に注意しよう

一人で静かに
鑑賞(かんしょう)したい人もいます。
お話しする時は小さい声で。



ケータイは使用しない

通話の声や着信音は
静かな館内に響いて
他の人の迷惑になります。

毎年、誰でも参加できる写真展「わたしのこの一枚」を開催します。

どうぞ気軽に参加ください。お待ちしています。

家族いっしょに土門拳記念館で本物の迫力ある写真を見てみよう!

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 4月～11月までは無休(ただし展示替えのため臨時休館あり)
12月～3月毎週月曜日(祝日のときは開館し、翌火曜日休館)
年末年始 ※年間カレンダーをご確認ください。

中学生以下
いつでも
入館無料



土門拳記念館
Ken Domon Museum of photography

〒998-0055
山形県酒田市飯森山2-13(飯森山公園内)
TEL 0234-31-0028 FAX 0234-31-0027
<http://www.domonken-kinenkan.jp/>



酒田が生んだ 写真家土門拳

どもんけんきねんかん 土門拳記念館を知る!



ようこそ、土門拳の世界へ

昭和の時代、日本写真界のリーダーとして、大活躍した、写真家土門拳。彼の故郷である酒田市には、日本で最初の写真美術館、土門拳記念館があります。土門拳ってどんな人だったの? 土門拳記念館って、どんなところ? さあ、一緒に学習しましょう。



どもんけんねんぶ年譜

明治42年(1909) 0歳

- 10月25日、酒田町(現在の酒田市)に、父熊造、母とみの長男として生まれる。土門拳は本名。
- 家は貧しく、両親は働きに出たので、祖父母に育てられる。
- 近所ではガキ大将だった。
- 春、小学校へ入学する前に東京へ行き、両親と暮らす。
- 横浜へ引っ越し。小学校は2回転校。絵や習字が得意で成績抜群の子どもだった。
- 旧制、横浜第二中学校へ入学。将来の夢は画家。
- 旧1年の時は成績が1番となり、2年では級長をつとめる。学費が払えず退学しようとするが、先生方に才能を惜しまれ、学費免除で学び続ける。
- 3年になると学校をさぼり、野山で写生したり、図書館で本をむさぼり読む。
- 中学校を卒業。
- 倉庫の日雇い、三味線弾きの弟子、弁護士の書生など職を転々とする。

大正 5年(1916) 7歳

大正 7年(1918) 9歳

大正12年(1923) 14歳

昭和 3年(1928) 19歳

昭和 8年(1933) 24歳

昭和10年(1935) 26歳

昭和14年(1939) 30歳

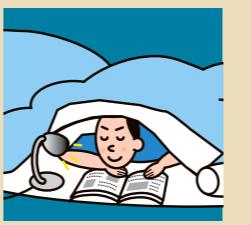
昭和16年(1941) 32歳

昭和18年(1943) 34歳

酒田市に生まれた土門拳は、困難と闘いながらも不屈の精神で写真界のリーダーとなりました。自分の信念をとことん追い求め、絶対に妥協しない。写真の鬼と呼ばれた、土門拳の生涯を見てみましょう。



報道写真家を目指した土門は、「教養は読書第一」と考えて、写真の歴史と科学を勉強しようと決意します。しかし、働きながらでは、寝床に入ってからないと自分の時間はありませんでした。先輩に気をつかいながら、それでも写真館の本を2年間で500冊も読みました。これこそ“寝床大学”です。



土門は、習字や絵が得意で、勉強がよくできる子どもでした。しかし、画家になりたい夢に挫折し、24歳の時写真館に弟子入りしました。



日本工房カメラマン時代に撮った写真 小河内村 傘を回す子供 1937年頃

「土門拳のメモ帳」写真を撮る前にいろいろ調べてメモに残しながら納得のいく写真を撮った。



洋画家、梅原龍三郎氏を撮影中、土門があまりにねばり強く写真を撮ろうとしたので、激怒し、イスを床にたたきつけられる事態に。まさに、撮る土門と撮られる梅原氏との「対決」でした。



梅原龍三郎(洋画家)

- 昭和19年(1944) 35歳
昭和20年(1945) 36歳
昭和22年(1947) 38歳
昭和25年(1950) 41歳
- 戦争が激しくなる中、文楽の原板を自宅の床下に埋め守る。
 - 終戦とともに、フリーの写真家となる。
 - 次女が防水用池に落ちて死亡。深刻なショックからようやく立ち直り、再び写真を撮る。
 - カメラ雑誌の審査員となり、アマチュア写真家の指導をする。
 - リアリズム写真に対する考え方、写真界にブームと論争を巻き起こす。

- 昭和28年(1953) 44歳
昭和29年(1954) 45歳
昭和30年(1955) 46歳
昭和32年(1957) 48歳
- 東京のデパートや酒田の本間美術館で、初めての個展を開催。
 - 約40年ぶりに故郷酒田を訪れ、酒田山王祭りの写真を撮る。
 - 初めて広島に行き、深刻な原爆問題を正面から取材。
 - 写真集「ヒロシマ」刊行。大きな反響を呼び、数々の賞を受ける。

- 昭和35年(1960) 51歳
- 写真集「筑豊のこどもたち」刊行。この、ざら紙、100円の写真集はベストセラーとなる。
 - 脳出血で倒れ入院。軽い後遺症で35ミリカメラを自在に使うことが難くなる。

- 昭和38年(1963) 54歳
- 写真集「古寺巡礼第一集」刊行。以後、昭和50年まで12年の歳月をかけ、第五集まで刊行。

- 昭和43年(1968) 59歳
- 写真家として活躍する中、2度目の脳出血で倒れる。
 - リハビリに励み翌年退院するが、右手はきかず、車いすの生活となる。

- 昭和48年(1973) 64歳
昭和49年(1974) 65歳
昭和53年(1978) 69歳
- それでも、不自由な体をおして、強烈な粘りで撮影を続ける。
 - 酒田・清水屋デパートで「古寺巡礼展」開催
 - 酒田市名誉市民第1号となり、全作品を酒田に贈ると表明。
 - 40年間ずっと撮りたかった雪景色の室生寺をやっと思いで撮影。

- 昭和54年(1979) 70歳
昭和58年(1983) 74歳
平成 2年(1990) 80歳
- 3度目の脳出血で倒れ、虎の門病院へ入院。以後、11年間意識不明のまま、眠り続ける。
 - 酒田に、日本で最初の写真美術館、土門拳記念館開館。
 - 9月15日、死去



酒田市名誉市民第1号になる

これまでの功績が認められ、酒田市名誉市民第1号になりました。強く故郷・酒田市を愛していた土門は、自分の撮った写真の約7万点を全て酒田市にプレゼントすると突然表明しました。



雪の室生寺鎧坂 金堂見上げ



『風貌』
1953年(昭和28年) アルス
この写真集の出版を思い立ってから、刊行まで10年の歳月がかかった。



『室生寺』表紙
1958年(昭和33年) 研光社
土門による振り下ろし写真集。
佐野繁次郎の画と題字による装丁もインパクトがある。



当時の金額だが、定価100円の写真集「筑豊のこどもたち」。10万部も売れた。



『古寺巡礼』第一集～第五集
1963年(昭和38年)～1975年(昭和50年) 美術出版社
外装に天金を使用し、焼印を押した桐箱入りに豪華限定本で、定価は1冊23,000円だった。菊池寛賞受賞。

「古寺巡礼」と4人の弟子たち

何事も徹底しなければ氣のすまない土門の凝り性は有名でした。その装備の物々しさは人目を驚かせました。先頭に立つ土門は赤シャツに菅笠をかぶり、つづく助手は重いカメラの革鞄をのせたショコロを背負っています。もう一人の助手は特大の三脚と大きな鞄。一行がぞろぞろ歩くとすぐ違う人々はみんなが振り返ります。一行の相人風体は凄かったです。

奈良県にある室生寺には、昭和14年から昭和53まで何十回にもわたり撮影に訪れていました。最後の最後に雪景色を撮った際は感激で宿のおかみさんと抱きあって泣いたというエピソードが残っています。

日本の写真史に残る名作の数々



母のない姉妹



弁当を持ってこない子



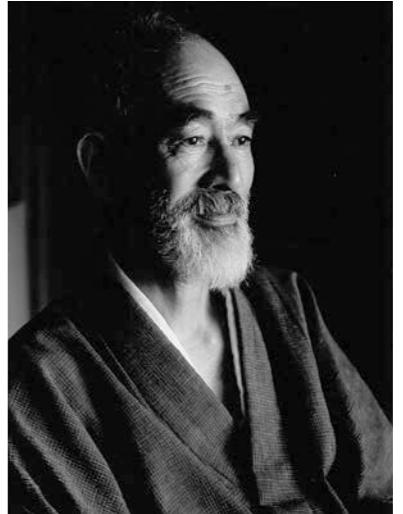
ボタ拾い

ちく ほう 筑豊のこどもたち

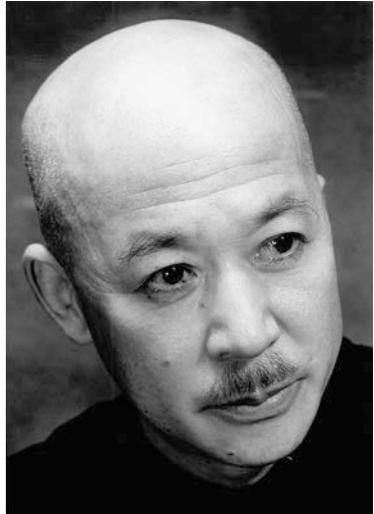
1959年(昭和34年)、九州の筑豊地方で炭鉱が閉山し多くの失業者が出ました。土門はそこで暮らす子どもたちの生活を撮影しました。100円の写真集はベストセラーとなりました。



川端康成(小説家)



志賀直哉(小説家)



山田耕筰(作曲家)

ふう ぼう 風貌

作家や画家や俳優、学者、政治家などあらゆるところで活躍している人物を撮りました。



少女の左顔面植皮手術



被爆者同士の結婚

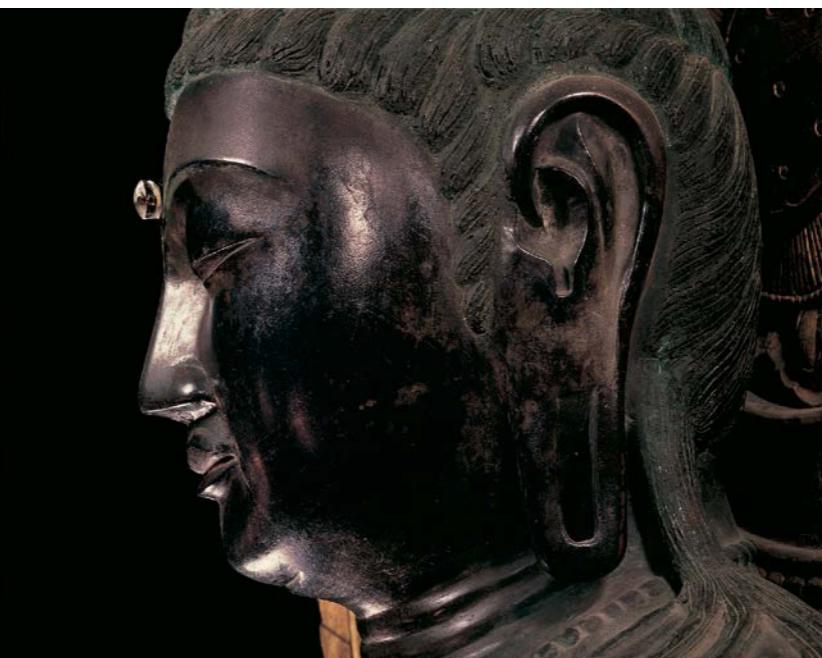


原爆ドームと元安川

ヒロシマ

1958年(昭和33年)発表

1945年(昭和20年)、戦争で原爆が落とされた広島に土門拳は13年後の1957年(昭和32年)にはじめて行きました。そこで原爆のさずあとに苦しむ人々を撮り、そのひどさに世界中が衝撃を受けました。



薬師寺東院堂觀音菩薩立像(聖觀音)頭部



平等院鳳凰堂夕焼け

こじ ジゅんれい 古寺巡礼

土門拳の一番の代表作です。生涯40年以上かけ100か所以上の寺を撮影しました。迫力のある日本文化の姿は多くの人々の感動を呼びました。

神護寺金堂薬師如来立像頭部



じゅんれい



近藤勇と鞍馬天狗



神田っ子



おしくらまんじゅう



とかげ

こどもたち

子どもが大好きだった土門。
いきいき遊ぶ昭和の子どもたちを
たくさん撮りました。

いい写真というものは、写したのではなくて、写ったのである。
計算を踏みはずした時にだけ、そういう写真が出来る。
ぼくはそれを、鬼が手伝った写真と言っている。

たった一回の室生寺行が、
ぼくに一大決心をなさしめた。
日本中の仏像という仏像を撮れば、
日本の歴史も、文化も、そして日本人をも
理解できると考えたのである。

土門の名言

肖像写真は一つの人間像でなければならない。
その人間の過去と現在をさまざまと物語る、
いわば自叙伝でなければならない。
いや、非常にすぐれた肖像写真ならば、
現在を通して、その未来をまで表すかもしれない。

モチーフと カメラの直結



絶対非演出の絶対スナップ

記念館について



土門拳記念館は、日本で最初にできた写真美術館です。土門拳の写真だけではなく、周囲の自然とマッチしたたくさんの見どころがあります。設計、庭、彫刻など、各界一流の土門拳と親しかった方々、またその息子さんなどが協力して、土門拳記念館を作っています。

世界的に有名なガイドブック「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」にも2つ星として載っています。

一流の芸術家たちが
残した友情の証。

建物
全体

谷口吉生

美術館をたくさん作っています。日本だけでなくニューヨーク近代美術館も彼の設計です。

中庭
彫刻

イサム・ノグチ

世界中で活躍した彫刻家です。



庭

勅使河原宏

生け花草月流の3代目家元、映画監督もしていました。



銘板

亀倉雄策

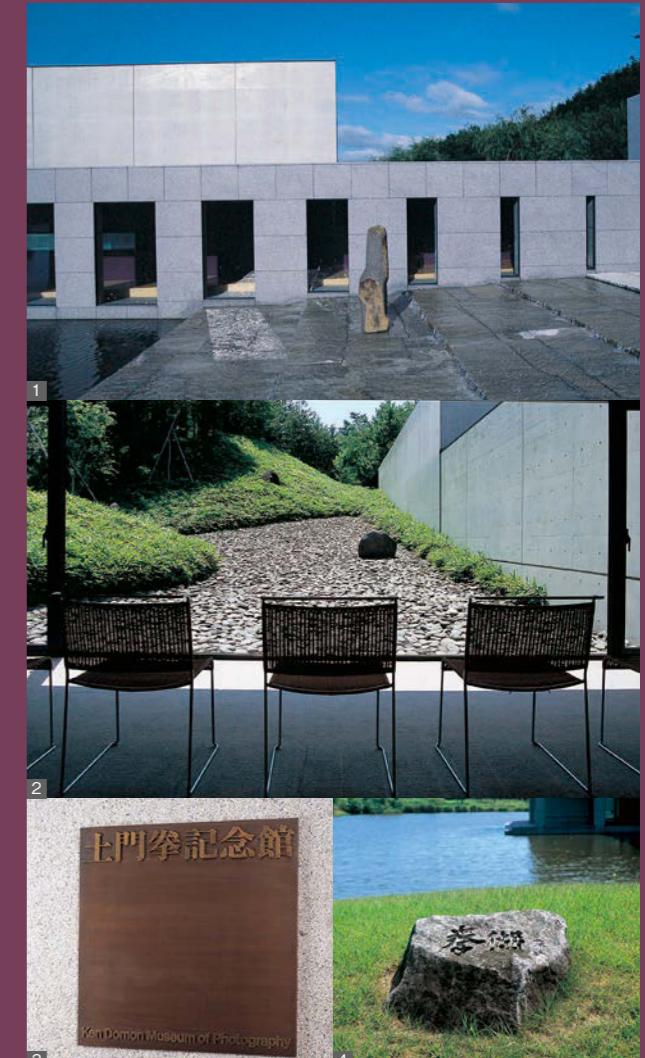
日本を代表するグラフィックデザイナー。みんなが知っているNTTのマークも彼のデザインです。



銘石

草野心平

「るるる…」など独特の表現を使ったかえるの詩で有名な詩人です。



1.彫刻 イサム・ノグチ「土門さん」 2.庭園 勅使河原宏「流れ」
3.銘板 亀倉雄策 4.銘石 草野心平「拳湖」